

令和3年度 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	令和3年度 第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会				
●日程	令和3年12月23日 (木)				
●会場	東京体育館				
●講師	なし				
●スケジュール	令和3年12月23日 (木)				
	10:30 審判控室集合・PGC				
	11:15 各自更衣・ウォーミングアップ				
	12:05 コートin・コートインスペクション				
	12:20 ゲーム開始				
●担当試合	令和3年12月23日 (木) 12:20 ~				
対戦カード	明秀学園日立(茨城)		VS	佐久長聖(長野)	
CC	中嶽氏(千葉)	U1	梅田氏(福井)	U2	北村
講師/主任	なし				
講評	<p>クルーで試合後にMTを行った。 大きく得点差が開いたゲームの中で、トラベリングの判定や、手を使って相手のFOMを妨げるプレーに対しての判定に課題が残った。 トラベリングの判定に関しては、細かくなり過ぎないようにと、PGCで確認を行っていたが、明らかなケースで判定できなかったプレーもあった。 リードがローテーションを起こすタイミングや、センターのポジションアジャストについて、1ゲームを通してベーシックなメカニクスを遂行していくことの重要性を、改めて感じることができるゲームであった。 ボールセーバーによりショットクロックをリセットするケースや、フリースローバイオレーションによりメインクロックを修正するケース等、クルーでクロック管理の意識を持って取り組むことができた。TOやTO主任ともコミュニケーションを取りながらゲームを運営できてよかった。</p>				
自己の感想	<p>事前に中嶽氏よりご連絡を頂き、PGCの資料を共有して頂いたり、当日のスケジュールをご提案頂いたりしながら、当日を迎えた。 私自身も、対戦チームの県予選の映像をもとにクリップを作り、クルーに共有できた。 中嶽氏のリードのもと、クルーワークを高めてゲームに臨めたことはよかった。 映像解析により、ゲームの中では、トラベリングの判定基準の精度を上げることと、ゲームフローを感じながらファウルコールに繋げていくことに課題が残ったと感じた。 JBAから配信して頂いているトラベリングに関するクリップに基づくと、類似のケースがあったように感じた。 また、大きく得点差が開いていくゲームフローの中で、リードしているチームのファウルを、シンプルに取り上げていけばよかったと思った。 最後に、本大会に参加させて下さいました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、本当にありがとうございました。</p>				